

教科	美術	科目	素描	単位数	3
学年	3	科	美術造形	専攻・コース	
教科書	美術 I 光村図書		副教材	適宜テキストプリントを配布	
学習到達目標	1,2年次に修得した素描の過程に磨きをかけ、「モノ」や「コト」への興味関心をもって「モノゴト」の成り立ちを理解し、そこに内在する美しさや面白さを見いだすチカラを身につける。そしてその魅力を他者に伝え共有するための的確な表現力を身につける。				
評価の観点	関心・意欲・態度、芸術的な感受や表現の工夫、創造的な表現の技法、鑑賞の能力				

期	月	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	備考
前	4	○素描 I 「花がメインの静物」 ○着彩 (デザイン専攻) ○パピエ・コレ (絵画専攻)	○自然物(花)を主なモチーフとして花の構造、色彩をはじめ、モノを素直に観ること、感じること、丁寧に表現することを心がける。 ○モチーフそれぞれの構成要素を理解し、的確な描写力を身につけると同時に、花の印象から受けるインスピレーションを基に作者オリジナルの世界観を構築する。	
	5	○素描 I 「花がメインの静物」 ○着彩 (デザイン専攻) ○パピエ・コレ (絵画専攻)	○着彩(デザイン専攻) 1,2年次に培った着彩のスキルを生かしてモノを観るチカラと細部まで描き切る体力を修練する。 ○パピエ・コレ(絵画専攻) 絵画制作において必須である空間の分析力と構成力を鍛え、素材と表現の可能性を追求する。	
	6	○素描 I 「花がメインの静物」 ○着彩 (デザイン専攻) ○パピエ・コレ (絵画専攻)	○着彩(デザイン専攻) 粘り強く制作をし、モチーフのリアリティーと透明水彩絵具の特性を画面に定着する。 ○パピエ・コレ(絵画専攻) 何度も素材と格闘することで得られる絵画的リアリティーと画面の強度を獲得する。	
期	7	○素描 I 「花がメインの静物」 ○着彩 (デザイン専攻) ○パピエ・コレ (絵画専攻)	○発表・講習会を行う。 発表・講習会により自身の作品を相対的に鑑賞し、客観的判断のもと長所と改善点を発見する。他者の作品から表現力、技術力、熱意、創意工夫など補足出来る箇所を見つける。	
	8			
	9	○音のイメージ 「コーヒー画」	○画材の多様性の一つとして、普段の生活環境のなかにも美術制作に応用でき得る素材や教材が存在することを発見させ、固定観念に捕われない自由な感覚や発想を提示する。 ○音源(教員用意)から受けるイメージの内面世界を想像力豊かに自身のビジョンとして具現化してゆく行程を学び、画材の特徴や効果が画面づくりとアイデアづくりにもたらす影響を体感する。	

期	月	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	備考
後 期	10	○音のイメージ 「コーヒー画」	○画材の多様性の一つとして、普段の生活環境のなかにも美術制作に活用でき得る素材や教材が存在することを発見させ、固定観念に捕われない自由な感覚や発想法を提示する。 ○音源（教員用意）から受けるイメージの内面世界を想像力豊かに自身のビジョンとして具現化してゆく行程を学び、画材の特徴や効果が画面づくりとアイデアづくりにもたらす影響を体感する。	
	11	○細密着彩 「水辺の生物」	○発表・講評会を行う。 発表・講評会により自身の作品を相対的に鑑賞し、客観的判断のもと長所と改善点を発見する。他者の作品から表現力、技術力、熱意、創意工夫など補足出来る箇所を見つける。 ○三年間の集大成としてこれまでに学んだ観察力、描写力、表現力を駆使し、密度、完成度ともに高い細密着彩を行う。モノを徹底的に見つめ、それを再現するプロセスだけでなく、単にモノを描き写すことを超えた領域での個のオリジナリティーと更にはモノの存在意義や価値観を一枚の絵として結実させる。	
	12	○細密着彩 「水辺の生物」	○個々の生徒がそれぞれに見合った力量を最大限に発揮することを最終目標とする。	
	1	○細密着彩 「水辺の生物」	○発表・講評会を行う。 発表・講評会により自身の作品を相対的に鑑賞し、客観的判断のもと長所と改善点を発見する。他者の作品から表現力、技術力、熱意、創意工夫など補足出来る箇所を見つける。	
	2			
3				

教科		美術		科目	素描	単位数	2
学年	高3	科	美術造形デザイン科		専攻・コース		
教科書		光村図書 美術			副教材	適宜テキストプリントを配布	
学習到達目標		<p>1、2年次に学んだ素描をベースに更に観察力、集中力、技術力（描画道具の使い方・客観的描写力・作品の完成度を上げる為の創意工夫など）の向上をはかる。更に感覚の開放、表現力の幅を増やす目的として積極的に未体験の画材や描画法を使用し観察描写の域を超えた造形感覚に磨きをかける。</p> <p>造形表現の基礎となる描写力を習得する。形態・パース・質感・構図・構成・空間などの造形要素を理解し、それらを正確に描写表現するための捉え方や技術を学ぶ。</p>					
評価の観点		<p>基礎的なデッサンの条件を満たしているか、形態・パース・質感・構図・構成・空間などの造形要素を理解しているか。また、デッサンをとおして表現の工夫、考える力が身についているか。</p>					
期	月	学習内容・項目		学習のポイントと到達目標			備考
前	4	素描Ⅰ 静物デッサン 「ブロックをメインに配置した静物」		<ul style="list-style-type: none"> ○複雑な構造をもつ人工物の形態の基本的な骨格と成り立ちを観察描写することでモチーフから与えられる情報を分析、解析する力を養う。 ○モチーフそれぞれの材質を考え質感を描き出せるよう工夫する。 ○モチーフのプロポーション、パースを 			
		↓		素早く正確にとらえることに重きをおく。			
	5	実技試験					
	6	↓					
期	7	素描Ⅰ 静物デッサン 「ブロックをメインに配置した静物」		講評			
				発表・講評会により自身の作品を相対的に鑑賞し、客観的判断のもと長所と改善点を発見する。他者の作品から表現力、技術力、熱意、創意工夫など補足出来る箇所を見つける。			
	8	各自選択課題 「細密描写・人物デッサン・卓上デッサン」		<p>構成力、描写力、物語性、密度など三年次までに学んできた素描における総合力を確認する作業とする。</p> <p>作品のクオリティーを保ちつつ、効率的作業と仕事の素早さを身につける。</p>			
	9	↓					

期	月	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	備考
後	10	↓	構成力、描写力、物語性、密度など三年次までに学んできた素描における総合力を確認する作業とする。 作品のクオリティを保ちつつ、効率的作業と仕事の素早さを身につける。	
	11	各自選択課題 「細密描写・人物デッサン・卓上デッサン」		
		実技試験		
期	12	↓		
	1	各自選択課題 「細密描写・人物デッサン・卓上デッサン」	発表・講評会を行う。 発表・講評会により自身の作品を相対的に鑑賞し、客観的判断のもと長所と改善点を発見する。他者の作品から表現力、技術力、熱意、創意工夫など補足出来る箇所を見つける。	
	2	普通授業終了後自宅学習		
	3			